



2018
第5回

明治維新150周年・市景観計画施行10周年記念

鹿児島市 景観まちづくり賞



ごあいさつ



鹿児島市長
森 博幸

鹿児島市は、世界有数の活火山・桜島や、波静かな錦江湾などの世界に誇れる素晴らしい自然景観や、磯地区の旧集成館をはじめとする世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」など、個性あふれる歴史・文化を有し、多様な都市機能が集積する南九州の中核都市として発展してきました。

これらの豊かな自然や鹿児島の風土・文化に育まれてきた美しい景観は、都市の魅力向上や交流人口の拡大に資するものであり、地域社会共有の財産として、次の世代にもしっかりと引き継いでいけるよう、市民、事業者、行政が一体となって、守り、創り、育てていく必要があります。

この「鹿児島市景観まちづくり賞」は、良好な景観形成に寄与している民間の建築物や、市民、事業者等の活動等を表彰し、これらを広く紹介することで、都市景観に対する市民や事業者の関心と理解を深め、魅力あるまちづくりを進めるために実施するものです。

第5回を迎える今回は、建築部門19件、景観部門2件に加え、新たに追加した屋外広告部門についても16件のご応募をいただき、3日間にわたる審査を経て、建築部門3件、屋外広告部門3件、景観部門2件の表彰を決定いたしました。

受賞された皆様方には、心からお祝い申し上げます。皆様方の景観まちづくりにかける情熱とご努力に敬意を表しますとともに、それらの取組の一つひとつが、多くの方々から愛され、地域の新しい魅力として定着していくことを期待しております。

さて、今年度は、本市景観計画施行から10周年という、景観行政における節目の年にあたります。これまで、同計画に基づき、地域ごとの特性を生かしつつ、さらなる景観の魅力向上に資するような景観づくりを進めてまいりました。

特に、本市特有の景観や歴史的価値のある建造物などを含む数少ない景観を有する地区については、本市ならではの貴重な景観の掘り起こしと保全・活用を図るため、「景観形成重点地区」に指定することとしており、「八重の棚田地区」、「磯地区」、「南洲門前通り地区」、「喜入旧麓地区」に続き、現在、「歴史と文化の道地区」、「慈眼寺公園周辺地区」等の指定に向け取り組んでおります。

今後とも、将来にわたり市民の皆様が愛着と誇りを持てるふるさとかごしまの景観づくりに積極的に取り組んでまいりますので、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、審査会の委員の皆様をはじめ、本賞の運営にご支援、ご協力を賜りました方々、そして今回ご応募いただきました皆様方に心から感謝を申し上げ、あいさつといたします。

審査にあたって



第5回鹿児島市景観まちづくり賞
審査会 委員長
門内 輝行
大阪芸術大学教授・建築学科長
京都大学名誉教授

平成22年に創設された「鹿児島市景観まちづくり賞」は本年度で第5回となりますが、第1回～第4回に引き続き、今回もこの由緒ある賞の審査委員長を務めさせていただくことになり、大変光栄なことと存じております。

私が鹿児島市に足を運ぶようになりしたのは、平成18年の「第9回鹿児島市建築文化賞」の審査の時からで、今年度でかれこれ12年目ということになります。その都度、現地審査で市内の各地を訪れ、また折りに触れて城山や桜島、尚古集成館などの見どころにもご案内いただきましたので、今では鹿児島市に対して生まれ故郷に抱くような懐かしさの感情が芽生えつつあるのを感じます。

今年度は明治維新150周年に当たりますが、この間わが国は近代化の道を進み、魅力的な歴史景観がいつの間にか失われてきました。そのことに対する強い反省の上に21世紀を迎えた平成16年に「景観法」が制定され、多くの人々が美しい景観の保存・再生・創造に関心を抱くようになってきました。鹿児島市でも、平成20年に景観法に基づく「景観計画」を作成し、良好な景観の形成に関する方針を定め、景観まちづくりに取り組んできましたが、今年度はこの景観計画の施行10周年の節目の年でもあります。これらの記念事業としても位置づけられている第5回鹿児島市景観まちづくり賞では、美しい街並みと豊かな都市環境に寄与し、街に潤いと魅力を与える屋外広告物を顕彰する「屋外広告部門」が創設されました。

第5回の審査は、10月26日～28日の3日間にわたって実施しました。天候にも恵まれ、現地審査を含めて順調に審査が進み、表彰対象となる作品・活動を無事選定することができました。審査対象は建築部門19件、屋外広告部門16件、景観部門2件でしたが、見応えのあるものも多く、充実した内容であったと思います。

審査に当たっては、書面審査をもとに現地審査対象を選ぶ「一次審査」、現地審査を踏まえて審査を行う「二次審査」からなる二段階審査を実施しました。今回は建築部門6件、屋外広告部門6件、景観部門2件について現地審査を行い、建築部門3件、屋外広告部門3件、景観部門2件を授賞対象として決定しました。

審査会としては、「鹿児島市景観まちづくり賞」の審査を通して、美しい街並みと豊かな都市環境に寄与し、街に潤いと魅力を与えている建築物や屋外広告物、良好な街並み等(田園、海岸、緑地等を含む)と市民(コミュニティ)による景観まちづくり活動を表彰し、優れた景観を形成する建築物や屋外広告物のデザイン、及びまちづくり活動のあり方を提示することにより、鹿児島市の建築・都市、景観・環境、歴史・文化をいっそう豊かなものにしていきたいと考えています。



地域生活支援拠点ゆうかり

障がいを持った人が自分らしく地域で暮らしていくことができるように、生活介護、相談支援、ショートステイ、グループホームという複合的な用途を組み込んだ地域生活支援拠点施設である。この種の施設は地域の人々と交流しながら生活することが重要であることから、鹿児島市の中心部に建設された木造枠組壁工法による4階建ての耐火建築物である。

人の繋がりを大切にする場としては温かみの感じられる木造建築が良いが、さまざまな施設を入れるには4階建て以上にする必要があり、一方で5階以上にすると2時間耐火が求められるため、1時間半耐火で済む4階建てとし、小さな部屋を積み重ねる必要があることから、木造枠組壁工法を採用したのである。さらに柱や梁などの構造を“現し”にするために純木質耐火集成材を採用し、主要な構造でない柱については檜の無垢材を“現し”に使用している。

1階は通所施設、2階はショートステイ、3・4階はグループホームとし、各層で機能が分かれているが、各フロアに設けられた玄関を通ることで自分の家に戻る感覚を得ることができる。部屋の位置を意図的にずらし、動きのある空間配置とするとともに、あらゆるところを木の仕上げとし、柔らかい温もりのある内部空間を実現している。

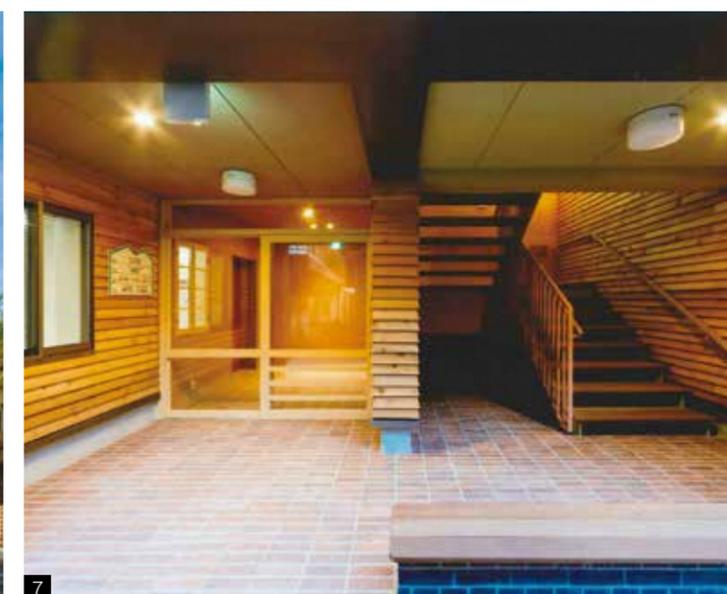
外装には無垢の木をふんだんに使い、道行く人にも親しみもてる景観を形成している。ファサードは4階建ての家型のアパートマンが2棟寄り添っているような形象とし、地域社会の人が支え合って生きることを表現している。1階の国道側にはウッドデッキの階段やスロープが設置され、そこから地域交流スペースにアクセスすることができる。

卓越した木造建築技術を駆使して、障がい者への細やかな心遣いが溢れ、周辺の景観や地域コミュニティにも十分配慮した優れた建築をつくり出すことに成功している。

所在地	草牟田一丁目8-7	設計者	無有建築工房	概要	用途: 障害者通所施設・寄宿舎
建築主	社会福祉法人ゆうかり	施工者	深野木・川井田特定建設 工事共同企業体	構造等	枠組壁工法(木造)・ 一部鉄骨造 4階 延面積: 1,297.53㎡

受賞者の声

障害のある方たちの暮らしの場が、快適で街並みに対しても優しく調和したものであり、職員にとっても働く場として誇りが持て、人に優しくなれる空間であってほしいという思いを込めました。
無有建築工房



1 外観全景 2 東側外観 3 4階リビング 4 1階活動スペース 5 西側歩道からの外観 6 西側外観 7 北側エントランス



萩原技研本社ビル

鹿児島市の中心地の市電通り沿いに建つオフィスビルである。周辺には時代を象徴する建物が数多く残っている由緒ある場所で、約40年間の歴史を地域社会とともに歩んできた建設コンサルタントが、自社の命運をかけて「働き方改革」の発信の場として実現した建物である。西側に城山、南側に天文館、東側に桜島を望む眺望の良さは、「空が見える」「海が見える」「山が見える」という経験をもたらし、働く人間のモチベーションを高める環境となっている。

都市軸となる電車通りから眺めると、凹凸のあるファサードが印象的であるが、そこには真っ白な壁面と奥まった位置にあるグレーの壁面、豊かな緑の植栽、陰影をつくり出すバルコニーなどが、美しいコントラストを形成していることが分かる。こうした「開かれたハコ型」とすることにより、窓からは明るい太陽の光が降り注ぎ、バルコニーにより夏季の直射日光による負荷を軽減し、緑化により心地よい風を呼び込むという、人間と自然環境との調和を実現している。

敷地前にバス停があり、バスを待つお年寄りや子ども連れの女性の利用者が多いことを踏まえて、1階ピロティ部分に地域貢献のためのパブリックスペースを確保している点も特筆に値する。四季の変化が楽しめる樹木を選定して植栽し、花壇横には庇の下でバスを座って待つことができるベンチを設けるなどの工夫が行われている。

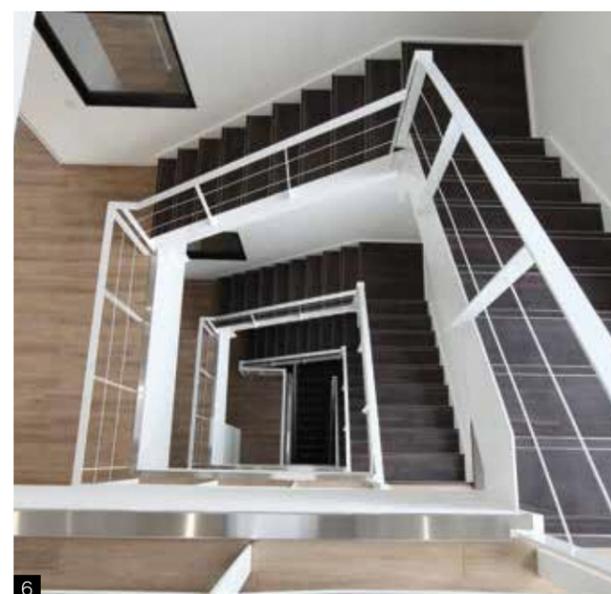
内部は「人と人の“つながり”の場」として、ロングスパン架構によりフレキシビリティの高い空間を確保し、オープン階段や吹き抜けを介して上下階の空間の一体化を図るとともに、白を基調とした内装材にフローリング調の床材を組み合わせて親しみのある空間とし、さらに働き方に対応した多様な家具を用意することで、新しいワークスタイルに対応したオフィスを追求した試みとしても高く評価できる。

所在地 山下町16-20 設計者 株式会社Dai建築DESIGN 概要 用途:事務所
 建築主 株式会社萩原技研 施工者 株式会社ミツバ建設 構造等:鉄骨造 6階
 延面積:1,095.99㎡

受賞者の声

外観は凹凸として豊かな表情を持たせ、季節を感じる植栽や地域と繋がるバス停用ベンチ等を設けることで「人」・「自然環境」・「街並み」の調和をコンセプトとして計画しました。

株式会社萩原技研



1 外観全景 2 執務スペース 3 吹抜けの大空間 4 レクリエーションルーム 5 外観(夜) 6 階段室 7 待合ベンチ



風の抜ける中庭を持つ WHITE CUBE

区画整理後の住宅街の角地に建つアトリエ付き住宅である。敷地は南と西にそれぞれ6mの市道に接している。アトリエと住宅のすべての居室に二方向の採光や通風が行き届く「中庭プラン」を採用し、室内環境の快適性を高めることを図っている。日射を遮る高床ポーチ、中庭を囲う掃き出し窓、アトリエ車庫奥の壁に設けたスリットからの風が吹き抜ける中庭は、光と風に満ちた環境となり、植栽の生育を促すとともに、執務空間と居住空間に潤いとゆとりをもたらしている。

車庫上に重層するスキップフロアで結ばれた二部屋が中庭を囲むことにより、回遊性と独立性を備えた魅力的な空間が生まれ、それがアトリエとしての機能性や住宅としての居住性を高めることに繋がっている。その結果、建築の内部には、外観からの予想をはるかに超える豊かな空間構成が実現されている。これらの空間を包み込む凹凸のあるホワイトキューブは、随所に組み込まれた緑と美しいコントラストをなし、清々しい精巧さを表現している。

外皮内側の断熱、建物周囲の緑化、ペアガラス、遮熱フィルム、設備の高効率化などの省エネ工法を数多く取り入れた建築は「環境共生住宅」として位置づけられるが、住宅の南窓を覆う日射遮熱パネルはその象徴としてデザインされたものである。扉のない建物周りのオープンスペースは、四季折々の季節感が感じられる地域共有の花壇・花木園である。西側道路に面する壁面には、西日対策の緑化を施すことで、街に潤いと視的涼感をもたらしている。さらに陽当たりの良い南庭には多種多様な樹木を植え込み、道沿いの緑陰には人々の憩いの場となる「みんなのベンチ」を設けている。

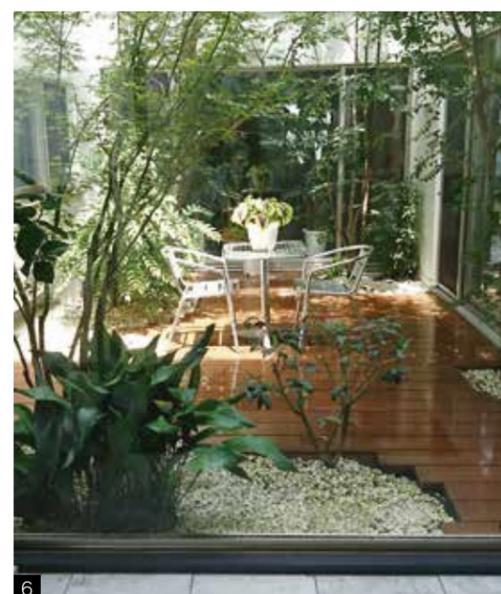
エコロジー思想が根づくドイツでの生活経験を持つ熟練の建築家が、自分が本当に過ごしたい空間を地域の景観形成にも貢献するかたちで実現した卓越した作品である。

所在地	薬師二丁目42-2	設計者	株式会社武田建築事務所	概要	用途:アトリエ付住宅
建築主	個人	施工者	株式会社前田組、株式会社新生組	構造等	壁式鉄筋コンクリート造 3階
				延面積	332.55㎡

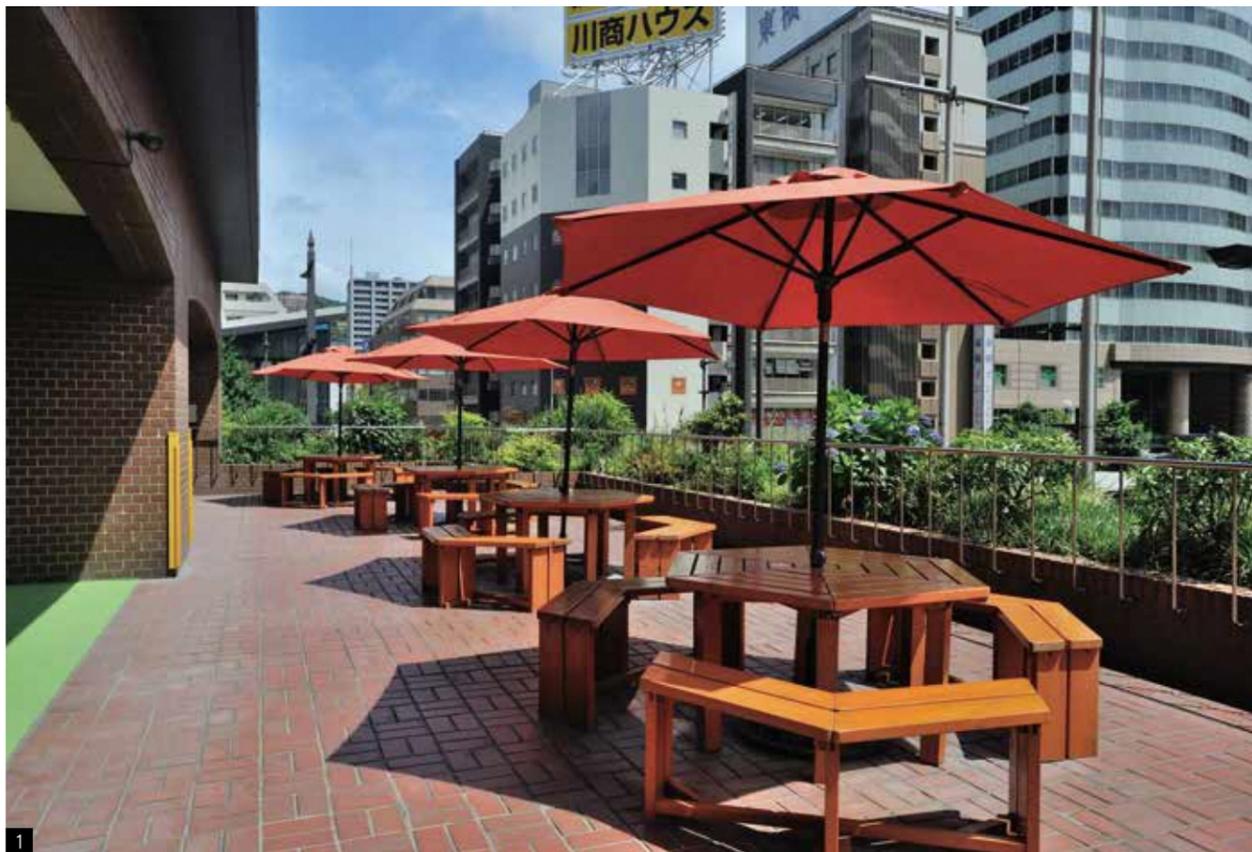
受賞者の声

建物周りのオープンスペースは視界の広がる地域との共有空間です。区画整理後の新しい街区にあって、「みんなのベンチ」を持ち四季折々の季節感漂う建物周辺が地域の緑を紡ぎ、コミュニティ形成の一助になることを願っています。

株式会社武田建築事務所



1 外観全景 2 北側外観 3 南側外観 4 みんなのベンチ 5 1階内部 6 玄関より中庭を臨む 7 2階内部



鹿児島中央ビル2階「中央ビルテラス なかにわ」

中央駅エリアと天文館エリアをつなぐ高見馬場エリアに位置する鹿児島中央ビルは、築後42年が経過した今も当初からの外観のレンガの風合いを継承し、地域のランドマークとして親しまれている。この間、鹿児島中央ビルディング株式会社は、エリアの「にぎわい創出」を地域貢献課題と捉え、ビル内外の景観形成やイベントの実施に取り組んでいる。

1階については、二宮橋通り沿い「東側庭園（イーストガーデン）」では、緑地帯・屋外広告物等を整備し、クリスマス・イルミネーション等、季節ごとの装飾やライトアップを行い、高見馬場バス停前「西側通路（ウエストサイドストリート）」にはベンチ等を設置してパブリックスペースとして開放し、ロビー中央には「季節の装花」を設置している。また地下1階では、「なかちか ぎやらりい」を地域団体や各種サークルの活動発表・作品展示のスペースとして無料開放している。

応募された景観である2階「中央ビルテラス なかにわ」は、「公開空地」として設計された空間であり、季節の植栽やガーデンパラスール・テーブルセット等を配置することで、多くの人々に「くつろぎのスペース」を提供する「ビル街の空中庭園」のような景観を形成している。この空間を活用して、南日本リビング新聞社の企画・運営による「カフェ&パル『宝山MARCHE』」のようなイベントを定期的で開催し、「にぎわい創出」に寄与したいと考えている。

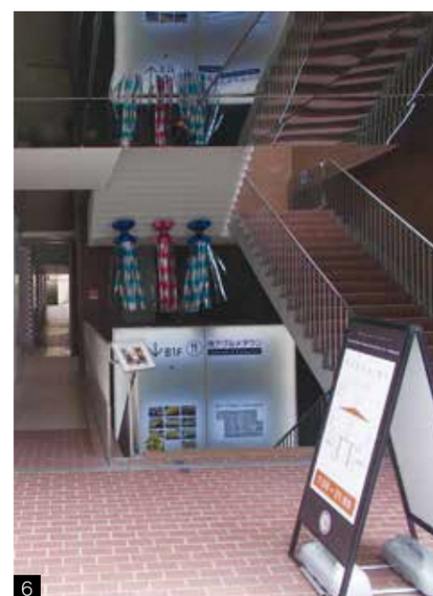
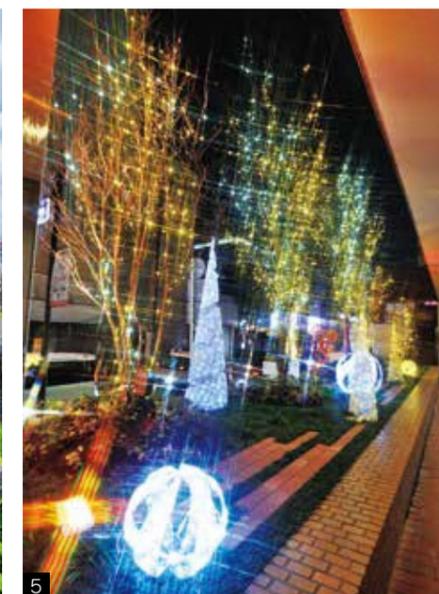
ビルの管理会社が主導して景観形成を推進している点は高く評価できるが、もう少し地域コミュニティ、NPO、学校、企業等の多様な主体に積極的に景観まちづくりに参加してもらうようにすると、パブリックスペースが一層魅力的なものになるはずである。景観形成の直接の担い手になるだけでなく、景観まちづくりの担い手を支援することも管理会社の重要な役割であると考え、今後の発展に期待したい。

所在地	山之口町1-10	取組内容	「中央駅エリアと天文館エリアをつなぐ高見馬場エリアの「にぎわい創出」」
活動団体	鹿児島中央ビルディング株式会社		・2F「なかにわ」の活用(緑化) ・1Fロビーの待ち合わせ場所化 ・地下1F「なかちか ぎやらりい」の運営 等

受賞者の声

景観まちづくり賞の受賞、誠にありがとうございます。「高見馬場地区のにぎわい創出」に向けた当社の取組をご評価いただき大変うれしく思います。「中央ビルテラス なかにわ」へぜひ一度足をお運びください。

鹿児島中央ビルディング株式会社



1 2階「なかにわ」 2 「なかにわ」案内板 3 外観全景 4 「なかにわ」からの景色 5 東側庭園(夜景) 6 西側通路 7 地下1階「なかちかぎやらりい」



南方校区の田園景観を活かした里づくり

南方校区の里づくりの活動区域は、東部地区（以下、地区を省略）第一、東部第二、川田大坪、川田前田、川田迫田、川田やまんだ、という6つの団地に及ぶ広い範囲に分布している。これらの区域では、平成10～15年度の県営中山間総合整備事業、平成22～29年度の県営農地環境整備事業等の基盤整備を契機として、地域総出で採取した大量の彼岸花の球根を水田や畑の周辺に移植し維持管理したり、ヒマワリやショウブの花などを育てたりする活動が継続的に展開されている。

東部地区の彼岸花は、20年近くが経過した今では毎年分球して群生しており、中でも、川田川護岸沿いの農道約1kmは「彼岸花ロード」として親しまれ、散歩する人や鑑賞に訪れる人などで賑わっている。また、県道沿いの水路敷約100mには三列の花々が咲き誇り、花尾神社秋の大祭時に開催される「蟻の花尾詣で」を彩る名所となっている。彼岸花を植えて5年が経過した川田前田では、秋になると、中世山城跡の川田城を背景に彼岸花の赤い絨毯と稲穂の黄金が織りなす絶景を楽しむことができる。春には「桜と石橋のライトアップ」、夏には「蛍鑑賞会」も実施している。

平成28年に農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るために設立された「南方保全会」は、自治会、南方小PTA、南方まちづくり協議会などを含む組織であり、「彼岸花の里づくり」や「案山子コンクール」などにも力を注いでいる。

水田、草花、河川、山並みからなる田園景観は、鹿児島市の貴重な資産であり、地域の風土とそこで営まれる生活・生業との関わりで形成された「文化的景観」として高く評価できる。また、この田園景観を長きにわたって守り育ててきた地域コミュニティの人々の活動には心を打たれるものがある。生命と暮らしを育む田園景観を活かした里づくりは、景観まちづくり賞に値する素晴らしい活動といえる。

所在地 東侯及び川田町の県営ほ場整備施行地内 **取組内容** 「南方校区の田園景観を活かした里づくり」

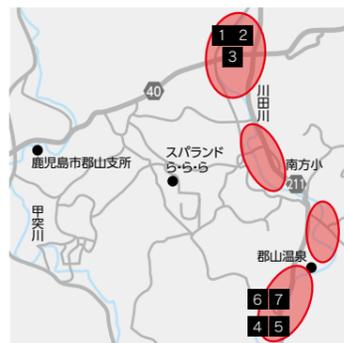
活動団体 南方保全会

- ・彼岸花の里づくり
- ・桜と石橋のライトアップ
- ・ホテル観賞会 等

受賞者の声

美しい田園の景観を守り後世の子ども達に引き継ごうと、農業者だけでなく校区住民を挙げて、長い歳月をかけ取り組んで来た活動が実を結んだ感じがしています。これからも、この地域資源を活かした里づくりの輪を広げていきます。

南方保全会



1 東部第一の彼岸花 2 田園景観 3 案山子の展示 4 春の景観ショウブ 5 夏の景観ヒマワリ 6 川田前田の彼岸花 7 桜と石橋のライトアップ



セイカ食品電照広告

天文館アーケード入口に設置されている鹿児島の人々に長く親しまれてきた屋外広告物である。ネオン看板であったが、地球温暖化対策の一つとして、ネオン管をLEDモジュールに変更したものである。このLED化により年間の光熱費が約10分の1に圧縮されたという。また、看板の面板は下方に向けて設置されているが、これは路上からの視認性向上を図るとともに、桜島からの火山灰の影響を避けるためでもある。さらに直接的な日光を遮ることで、褪色や劣化から面板を守ることもできる。

表示部分の色合いに関しては、セイカ食品としての馴染み深い「南国白くま」と「ボンタンアメ」のパッケージの色合いをそのまま表現することで、親しみやすさ・安心を感じさせるデザインとなっている。これらの広告物に使用された文字は、LED照明によって夜空に明るく浮かび上がり、天文館界隈の魅力的な夜間景観を形成する重要な要素となる。側面の「兵六餅」の看板も商品パッケージの色合いを採用しているが、こちらはLED化せず、ライトアップする形となっている。

伝統的メーカーの定番商品の看板であり、鹿児島のアイデンティティを表現する魅力的な屋外広告物として高く評価できる。

所在地 千日町15-1 制作者 株式会社ハダ工芸社
 広告主 セイカ食品株式会社 種別 屋上広告物

受賞者の声

「天文館」G3アーケードの入口で、昭和53年3月より皆様に親しまれて参りました。震災に伴う電力事情もあり、24年7月にLEDを使い新装となりましたが、当時のネオン看板の風合いを残しつつ、街の再開発・発展とともにありたいと存じます。

セイカ食品株式会社



1 近景 2 遠景(夜)



建機ミュージアム

建機ミュージアムは、高度経済成長時代のインフラ整備を支えてきた建設機械(ケンキ)を集めて野外展示した施設であり、開館5周年を迎えた現在、展示機器は建機車両80台、アタッチメント(建設機械に装着して使用する様々な付属装置)その他の関連物60台に達している。このミュージアムの入口脇に設置されている看板は、その横に置かれたアタッチメントやタイヤなどの展示物と一体となって、ミュージアム内部のワクワク感を引き出すような魅力的な屋外広告物として機能している。

看板自体は、建設関係者や小・中学生でもわかるように施設の概要を表現するコンパクトな写真を使用するとともに、緑の森林の中に黄色や赤の重機が並ぶミュージアムの景観にマッチしたデザインとしている。一方、周囲には産業廃棄物処理施設が建ち並ぶ中で、この施設は何かと思わせるような意外なディスプレイともなっていて、興味をそそられる。

建機ミュージアムの看板とアタッチメントやタイヤなどのカラフルなオブジェを合わせた全体が、一つの優れた屋外広告物を形成している点を高く評価する。看板のみを目立たせるのではなく、背景の緑や周辺のオブジェとの調和に配慮してデザインしているのである。

所在地 小野町3618 制作者 有限会社輝広
 広告主 株式会社エコフロント西部 種別 野立広告物

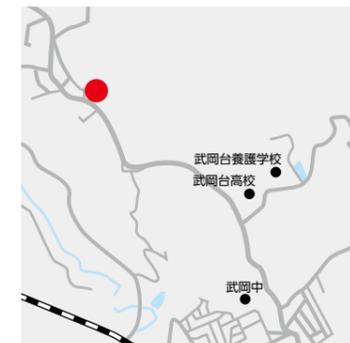
受賞者の声

景観まちづくり賞の受賞ありがとうございます。展示内容が一目で分かるデザインにし、隣に並ぶ建機アタッチメントの大きさや色を勘案し周囲の環境と調和するように工夫しました。

株式会社エコフロント西部



1 近景 2 遠景





池田製茶株式会社

池田製茶は茶業団地の一角を占めている。そこには、会社名とロゴを記した看板及び認証マークやブランドマークをまとめた看板の二つが設置されている。いずれも、黒地に白い文字がバランス良く浮かび上がる形となっており、日本茶・日本をイメージさせる優れたデザインである。

看板の空間を均等に空け、黒い看板の重厚さを出しつつも威圧感を軽減し、企業の伝統性／高品質さのイメージを出しながら、背後にある植栽とも調和した一体感のある景観を形成している。この看板の裏側には、社員や訪問者に向けて、「温故革新」というメッセージが記されている。

国際的な食品安全システム認証規格「FSSC22000」を取得したことを示す認証マーク等を掲げた看板は、今後マークが増えることを想定し、パネルを貼り付ける縦のバーを追加できる拡張性のあるデザインとしている。

看板の背後にある植栽は、初代社長が台湾から持ってきた石、松の木を残しつつも、竹と茶の木を新たに植え替えたものであり、道路沿いの魅力向上に配慮して、すっきりと整った自然な景観をつくり出している。

茶業は鹿児島県の主要産業であることから、池田製茶のような取り組みが茶業団地全体へと広がっていくことを期待している。

所在地 南栄3丁目11茶業団地内 制作者 ZERO HOURS DESIGN STUDIO

広告主 池田製茶株式会社 種別 野立広告物

受賞者の声

製茶会社の品質・技術力・歴史性、看板の機能性、景観が互いに調和するようデザインしたこのプロジェクトが、このような賞を頂け大変有り難く思います。この評価が、屋外広告の情報発信だけでなく、街の景観作りともなる1モデルとして広がることを願っています。

ZERO HOURS DESIGN STUDIO



1 近景 2 遠景



その他の二次審査対象

※景観部門は本欄で講評すべき対象はありません。

建築部門

医療法人友愛会 前田病院・外来棟

所在地 中央町
 建築主 医療法人友愛会前田病院
 設計者 清水建設株式会社九州支店一級建築士事務所
 施工者 清水建設株式会社九州支店
 用途 診療所

老朽化した既存病院から診察・放射線・検査・リハビリ部門を移設し、地域医療ニーズに合った外来棟を新設する計画である。閑静な小学校側の通りに面する外来棟は、1・3階のセットバックによる圧迫感の軽減・表情のある外観・街に開かれた病院・温かみのある落ち着いた色彩計画、安全性への配慮などの工夫が凝らされた優れた建築である。2階待合室は小学校の緑の眺めを享受できる快適な空間である。既存病院との関係を含む病院全体の計画に対する検討や外来棟1階の街路側の安全性・快適性の確保などが行われると、更に進化した病院になると思われる。

鹿児島みなみ眼科

所在地 山田町
 建築主 医療法人玲伸会
 設計者 株式会社太陽設計
 施工者 株式会社新生組
 用途 診療所

鹿児島市の郊外に位置する入院施設を持つ眼科診療所である。間口48mのファサードは8つの門型フレームで構成され、深い軒や樹木によって南国特有の強い日射しを制御し、入口にはピロティ型の車寄せをつくり、雨天や桜島からの降灰に対応する。こうした気候風土に即したデザインが行われている。内部は1階に外来・検査部門、2階に手術・入院部門を配置し、1階の道路側には大きく開かれた待合室を設け、地域社会との繋がりを表現している。外観は単調な構成になっているが、夜には建物は行灯のようにライトアップされ、人々に安心感を与える存在となる。

アルテンハイム鹿児島

所在地 与次郎一丁目
 建築主 社会福祉法人野の花会
 設計者 季木工房
 施工者 清水・前田特定建設工事共同企業体
 用途 老人ホーム

桜島と錦江湾を望むことができる、利便性の高い街中に建つ老人ホームである。建物内には、シニアマンション、デイサービス、小規模多機能施設、特別養護老人ホームなどの多機能があり、入居者はそれらを組み合わせて利用できる。1階周辺には、地域交流スペース、年中花の絶えない前庭、彫刻の点在する緑の空間などがあり、豊かな交流の楽しみがある。アルミ板パンチングメタルとカラフルな壁面が織りなす外観は伊東豊雄氏のデザインによる。「福祉に文化を」という理念のもとに、理事長の目配りが行き届いた質の高い文化生活の場が実現されている。

屋外広告部門

株式会社コールドテクノ

所在地 西別府町
 広告主 (株)コールドテクノ
 制作者 (株)フンカ巧芸社
 種別 野立・壁面広告物

鹿児島流通業務団地内に建つ電気・空調機器・冷凍設備等を総合的に扱う企業の屋外広告物である。壁面広告物としてのロゴサインはシンプルで建物とのバランスが良い。ロゴの黒文字部分は夜間発光する。入口の野立広告物は、社屋内に入る関連会社の広告を1つの広告物にまとめたもので、すっきりとしたデザインが実現されている。ステンレス鋼板を加工した樹木のシルエット部分は、夜間は光の表現として浮かび上がる。建物と広告物の関係や使用された色彩相互の関係がよく考えられており、全体としてバランスのとれた優れたデザインとなっている。

Cafe Maman et moi

所在地 宇宿一丁目
 広告主 個人
 制作者 (株)ステップサイン
 種別 壁面・塀面広告物 他

閑静な住宅地にオープンした小さなカフェの屋外広告物である。洋風と和風が混在した建物や周辺環境との調和に配慮し、落ち着いた雰囲気のお店となるように、デザインをまとめている。庭に立つ独立両面ポールサイン、垣根に付けられた営業案内サイン、駐車場案内誘導サイン、営業案内プレート、メニューを示す置き看板などの小さな広告物の集合である。あまり派手にならないよう落ち着いた雰囲気にするのがデザインの方針となっており、近隣のお客様とのコミュニケーションを大切にしているオーナーの価値観が素直に表現された広告物といえる。

つつる天

所在地 伊敷一丁目
 広告主 個人
 制作者 (株)ニシムラ
 種別 塀面広告物

住宅地に建つ店舗の屋外広告物である。エントランス脇の塀に取り付けられた看板は、店名部分はベースの木材をくり貫き、細かい穴が無数に開いたシートを貼付したアクリルを取り付けた内照式のサインとすることで、昼間は黒文字のサイン、夜間は白色に発光するサインとなる。突き出し看板は、建物との調和を考えてシンプルな造形としている。現在の塀の色彩は料理のジャンルを踏まえて選択したものと推測されるが、竣工写真を見ると素材感のある打ち放しコンクリート仕上げとなっており、広告物がファサードと美しく調和していたことが分かる。

第5回 鹿児島市 景観まちづくり賞

1 目的

景観まちづくり賞は、良好な景観形成に寄与している優れた建築物や屋外広告物、並びに市民等の活動により保全されている景観の良好な街並み、田園、海岸、緑地、及び景観形成に貢献している市民等の活動を表彰し、これらを広く紹介することにより、景観に対する市民や事業者の関心を高め、魅力的な景観のあるまちづくりを進めることを目的として実施するものです。

2 募集期間

平成30年6月18日(月)～8月10日(金)

3 募集対象

① 建築部門

市内にあり、建築物として優れ、美しい街並みと豊かな都市環境に寄与し、街に潤いと魅力を与えており、平成20年4月1日から平成30年8月10日までに建築基準法による検査済証の交付を受けた民間建築物

② 屋外広告部門(新設)

市内にあり、広告物として優れ、美しい街並みと豊かな都市環境に寄与し、街に潤いと魅力を与えている民間の屋外広告物

③ 景観部門

- 市民・事業者によってつくられ保全されている街並み、田園、海岸、緑地などの市内の良好な景観
- 市内で継続的に取り組まれている景観まちづくり活動

4 応募件数

建築部門:19件 屋外広告部門:16件 景観部門:2件

5 審査会

① 期間：平成30年10月26日(金)～28日(日)

② 審査会委員

委員長	門内 輝行 大阪芸術大学教授・建築学科長、 京都大学名誉教授
副委員長	井上 佳朗 鹿児島大学特任教授(名誉教授)
委員	古川 恵子 鹿児島女子短期大学名誉教授
	橋本 文雄 鹿児島大学農学部教授
	江良 きよ子 era色彩計画代表
	木方 十根 鹿児島大学大学院理工学工学系教授
	東川 美和 NPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会事務局長

6 表彰

建築部門	建築主	賞状及び銘板
	設計者	賞状
	施工者	賞状
屋外広告部門	広告主 制作者	賞状及び銘板 賞状
景観部門	活動団体等	賞状及び賞金10万円

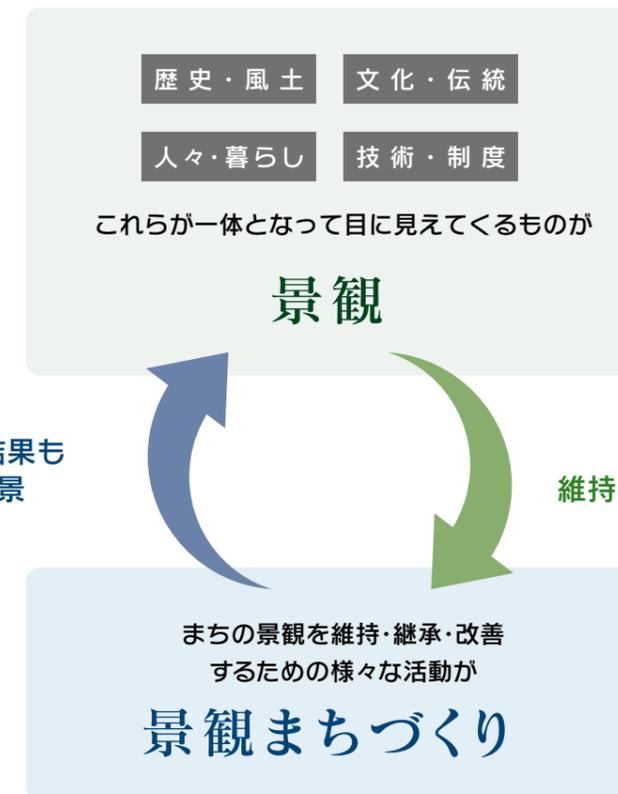
景観まちづくりとは

景観とは・・・

- 景観は、それぞれの地域ごとの歴史、地勢や生態系などの風土、文化や伝統、私達一人ひとりの暮らしや経済活動等と、技術の進歩や法律制度等が背景となってつくられるものです。
- 良好な景観は、地域の個性や特色をわかりやすく特徴づけるものであり、人々の地域に対する愛着やふるさと意識を育みます。
- 身近にある景観のよさは、潤いある魅力的で豊かな生活環境の創出に貢献します。
- 美しく個性的な景観は、観光をはじめ国内や世界各地との交流を活発にする役割を担います。

景観まちづくりとは・・・

- 自分たちのまちの景観を楽しみ、貴重な財産として次世代に残せるように、わがまちの景観を維持・継承・改善するための様々な取り組みが、景観まちづくりです。
- 景観まちづくりは、現在の良好な景観を大切に保全することだけでなく、新たに現代的で美しく魅力的な景観をつくりだすことも含みます。
- 清掃や緑化など、日々の暮らしに根ざした、まちの景観を整えるための地道な活動も、良好な景観まちづくりに貢献しています。





鹿児島市建設局都市計画部都市景観課

〒892-8677 鹿児島市山下町11番1号

TEL: 099-216-1425

<http://www.city.kagoshima.lg.jp/>

発行: 2019年1月

